

科目名	プレゼンテーション 2						年度	2026	
英語科目名	Presentation 2						学期	後期	
学科・学年	CG映像科 1年次	必/選	必	時間数	30	単位数	1	種別※	実技
担当教員	鈴木(洋)		教員の実務経験	有	実務経験の職種		映像プロデューサー		
【科目の目的】 映像企画の立て方、ストーリーの構築方法について学ぶ。									
【科目の概要】 進路指導の一環として、自己表現や作品アピールの方法について学び、トレーニングを行う。また、自己表現のツールとして重要なポートフォリオ（作品集）について研究し、実際に作品をまとめる作業を行っていく。□									
【到達目標】 優れた先人達の映像理論やテクニックを学び、名作映像作品の素晴らしさを知る。企画立案、脚本、絵コンテ制作、撮影、編集、CG制作、VFX、音響などの基礎知識を身につけ、テレビ業界や映像制作会社における仕事についても学び、実践的な知識を身につける。映像作品に対する客観的視点を持つことで、視野を広げ自身の作品制作に役立てることを目標とする。									
【授業の注意点】 理由のない遅刻、欠席は認めない。授業時限数の4分の3以上出席しない者は評価しない(不合格とする)。授業中の私語、携帯端末等の使用も禁止とする。特に私語は講義の進行妨害、他の生徒が講義を受ける事への妨害行為となる事から厳禁。専門学校は専門知識や技術の習得だけと目的とするものではなく、学生から社会人への移行の場でもある。社会人としてのマナーや心構えも身につける事。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	企画の立て方の基本、テーマと主題の違い、企画書の書き方の基本についての深い理解がある	企画の立て方の基本、テーマと主題の違い、企画書の書き方の基本について理解している	企画の立て方の基本、テーマと主題の違いについては理解しているが、企画書の書き方の基本について理解が浅い	企画の立て方の基本、テーマと主題の違い、企画書の書き方の基本について全体的に理解が浅い	企画の立て方の基本、テーマと主題の違い、企画書の書き方の基本について理解していない				
到達目標 B	三幕構成について深く理解しており、各ステージで書かなくてはならない事についての知識があり、パラダイムを作る事ができる。	三幕構成について理解しており、各ステージで書かなくてはならない事についての知識があり、パラダイムを作る事ができる。	三幕構成について理解しており、各ステージで書かなくてはならない事についての知識があるが、パラダイムを作る事ができない。	三幕構成について理解しているが、各ステージで書かなくてはならない事についての知識が浅く、パラダイムを作る事もできない。	三幕構成について理解しておらず、各ステージで書かなくてはならない事についての知識がなく、パラダイムを作る事ができない。				
到達目標 C	アイディアの具現化プロセス、ドラマの構造、ジャンルについての深い理解があり、シナリオを書き出す準備が整っている。	アイディアの具現化プロセス、ドラマの構造、ジャンルについて理解しており、シナリオを書き出す準備が概ね整っている。	アイディアの具現化プロセス、ドラマの構造、ジャンルについて理解はしているものの、シナリオを書き出す準備は整っていない。	アイディアの具現化プロセス、ドラマの構造、ジャンルについて理解が浅く、シナリオを書き出す準備が整っていない。	アイディアの具現化プロセス、ドラマの構造、ジャンルについて理解しておらず、シナリオを書き出す準備が整っていない。				
到達目標 D	キャラクター造形、プロットやトリートメントの書き方、インデックスカードやボードの使い方についての深い理解がある。	キャラクター造形、プロットやトリートメントの書き方、インデックスカードやボードの使い方について理解している。	キャラクター造形、プロットやトリートメントの書き方は概ね理解しているが、インデックスカードやボードの使い方についての理解が浅い。	キャラクター造形、プロットやトリートメントの書き方についての理解が浅く、インデックスカードやボードを使いこなす事ができない。	キャラクター造形、プロットやトリートメントの書き方、インデックスカードやボードの使い方について理解していない。				
到達目標 E	スティーブン・キングの創作法について深く理解し、ストーリーを作り上げる上で必要な知識やテクニック、リライト法などを自分のものになっている。	スティーブン・キングの創作法について理解しており、ストーリーを作り上げる上で必要な知識やテクニック、リライト法などを身につける準備が整っている。	スティーブン・キングの創作法について概ね理解しているものの、ストーリーを作り上げる上で必要な知識やテクニック、リライト法などについてやや知識が浅い。	スティーブン・キングの創作法についての理解が浅く、ストーリーを作り上げる上で必要な知識やテクニック、リライト法などについて知識が浅い。	スティーブン・キングの創作法について理解しておらず、ストーリーを作り上げる上で必要な知識やテクニック、リライト法などが身につけていない。				
【教科書】 毎回プリントを配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。									
【参考資料】 特になし									
【成績の評価方法・評価基準】 試験・課題50%完成した企画の完成度について評価する。 平常点 50%積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		プレゼンテーション2			年度	2026
英語表記		Presentation 2			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	PLANNING①	映像企画の立て方の基本を学ぶ	1 企画を立てるコツ	企画を立てるコツを知る	3	
			2 テーマを持つ	テーマと主題の違い		
			3 三つの鍵	ストレクチャー／獨創性／マーケティング		
2	PLANNING②	CONECTION	1 普遍的なテーマ	5つの普遍的なテーマについて知る	3	
			2 欲求	7つの欲求について知る		
			3 観客とのコミュニケーション	作品を通して観客とコミュニケーションを取る方法について		
3	PLANNING③	企画書の書き方	1 企画の具現化	企画書のフォーマットについて知る	3	
			2 タイトル／テーマ／設定	タイトルやテーマ、設定の作り方		
			3 イメージボード	イメージボードを作る意義		
4	STORY ANALYZE①	三幕構成①	1 三幕構成の全体像	三幕構成とは何か	3	
			2 第一幕（設定）	第一幕で書かなくてはならない事		
			3 ターニングポイントⅠ	第一幕のターニングポイントについて		
5	STORY ANALYZE②	三幕構成②	1 第二幕（対立・衝突）	第二幕で書かなくてはならない事	3	
			2 ビンチ	第二幕のピンチについて		
			3 ターニングポイントⅡ	第二幕のターニングポイントについて		
6	STORY ANALYZE③	三幕構成③	1 第三幕（解決）	第三幕で書かなくてはならない事	3	
			2 クライマックス	クライマックスについて		
			3 エンディング	エンディングについて		
7	シナリオ基礎①	アイデアの構築	1 何を書くかを知る	ジャンル、テーマなどを決め、書き出しの出発点に立つ	3	
			2 ログライン	ストーリーの要約を一行で書く		
			3 アイディアの具現化	具現化のプロセスを知る		
8	シナリオ基礎②	シナリオの構成	1 ドラマの構造	代表的なドラマの構造について知る	3	
			2 メインキャラクター	主人公、仲間、敵の描写法		
			3			
9	シナリオ基礎③	ジャンル	1 ジャンル①	スナイダーによる10のジャンルについて①	3	
			2 ジャンル②	スナイダーによる10のジャンルについて②		
			3 ジャンル③	スナイダーによる10のジャンルについて③		
10	シナリオ基礎④	キャラクターの創造	1 タイプ	欲求、ものの考え方、変化について	3	
			2 人生年表	登場人物たちの人生年表を作る事の必要性		
			3 会話	会話（セリフ）の役割について		
11	シナリオ基礎⑤	プロット	1 プロットとは	プロットとストーリーの違い	3	
			2 トリートメント	トリートメント（シノプシス）の書き方		
12	シナリオ基礎⑥	物語の組み立て方	1 インデックスカード	インデックスカードを使った構成方法	3	
			2 ボード	ボードを使った構成方法		
13	スティーブン・キングの小説作法①	小説を書く上で必要な事	1 語彙／文法	語彙の使い方、好まれる文法について	3	
			2 文章作法	読みやすい文章について		
			3 読書	読書の重要性について		
14	スティーブン・キングの小説作法②	執筆	1 初稿	初稿の書き方	3	
			2 ジャンル	ジャンルの選び方		
			3 小説の要素	叙述、描写、会話について		
15	スティーブン・キングの小説作法③	リライト	1 人物造形	キャラクターを作るコツ	3	
			2 ストーリーテリング	物語の語り方		
			3 見直し作業	リライト作業の実際		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等 指定の実習室・教室で受講する。